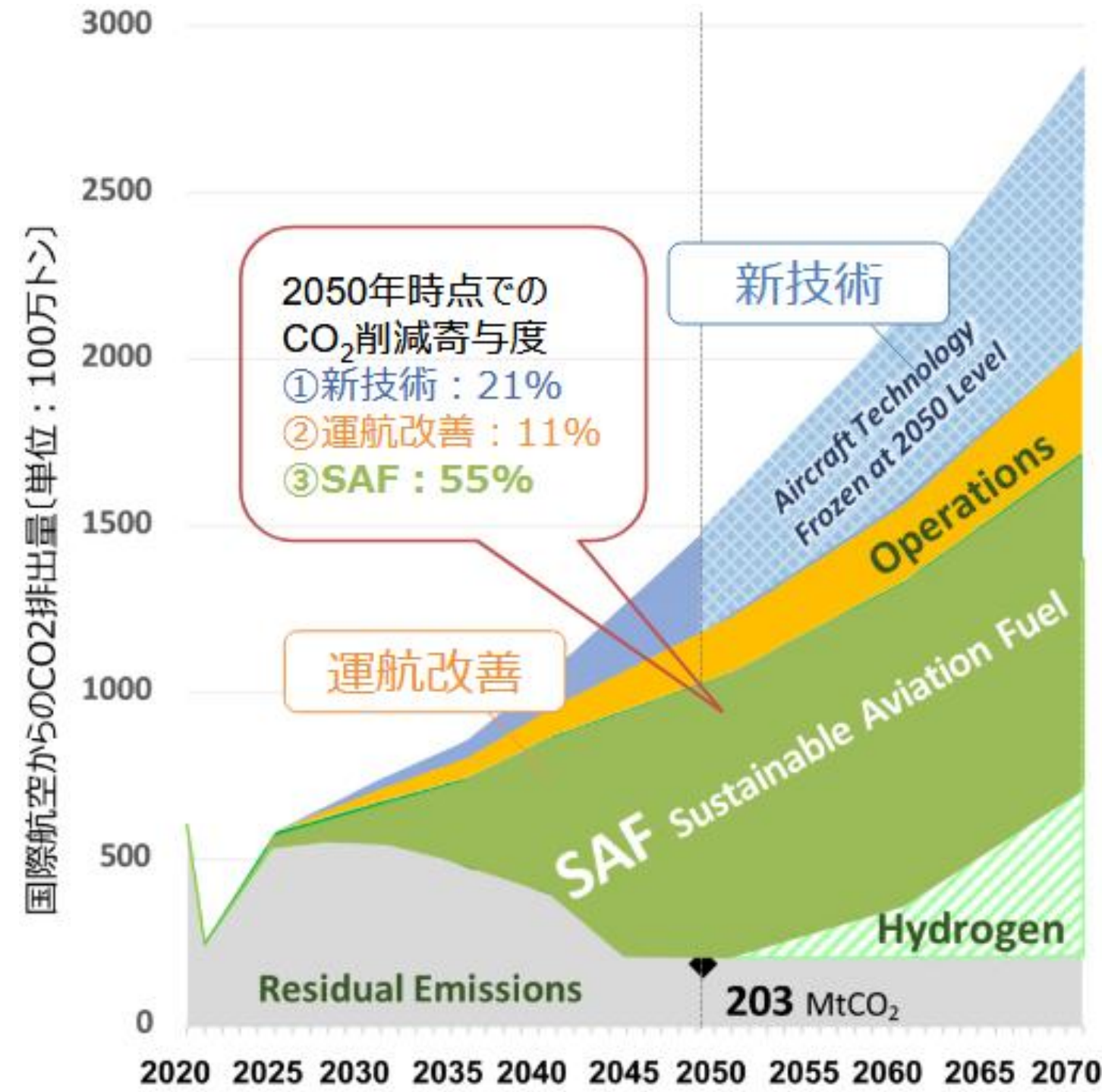


持続可能な航空燃料（S A F）等の安定的・効率的な生産技術開発事業

団体名：NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）
発表日：2026年7月21日

■ SAF導入の背景

- 国連の専門機関である**国際民間航空機関（ICAO）**は、国際航空分野の**2021年以降のCO₂排出量を、2019年のCO₂排出量（基準排出量）に抑える**目標を策定。2022年のICAO総会では、**2024年～2035年は2019年のCO₂排出量の85%以下に抑える**という、より厳しい目標が採択された。
- 航空会社は、こうした目標を達成するため、CO₂排出量を削減しなければならない。達成手段の一つとして**SAF（Sustainable Aviation Fuel）の導入が必要**とされている。

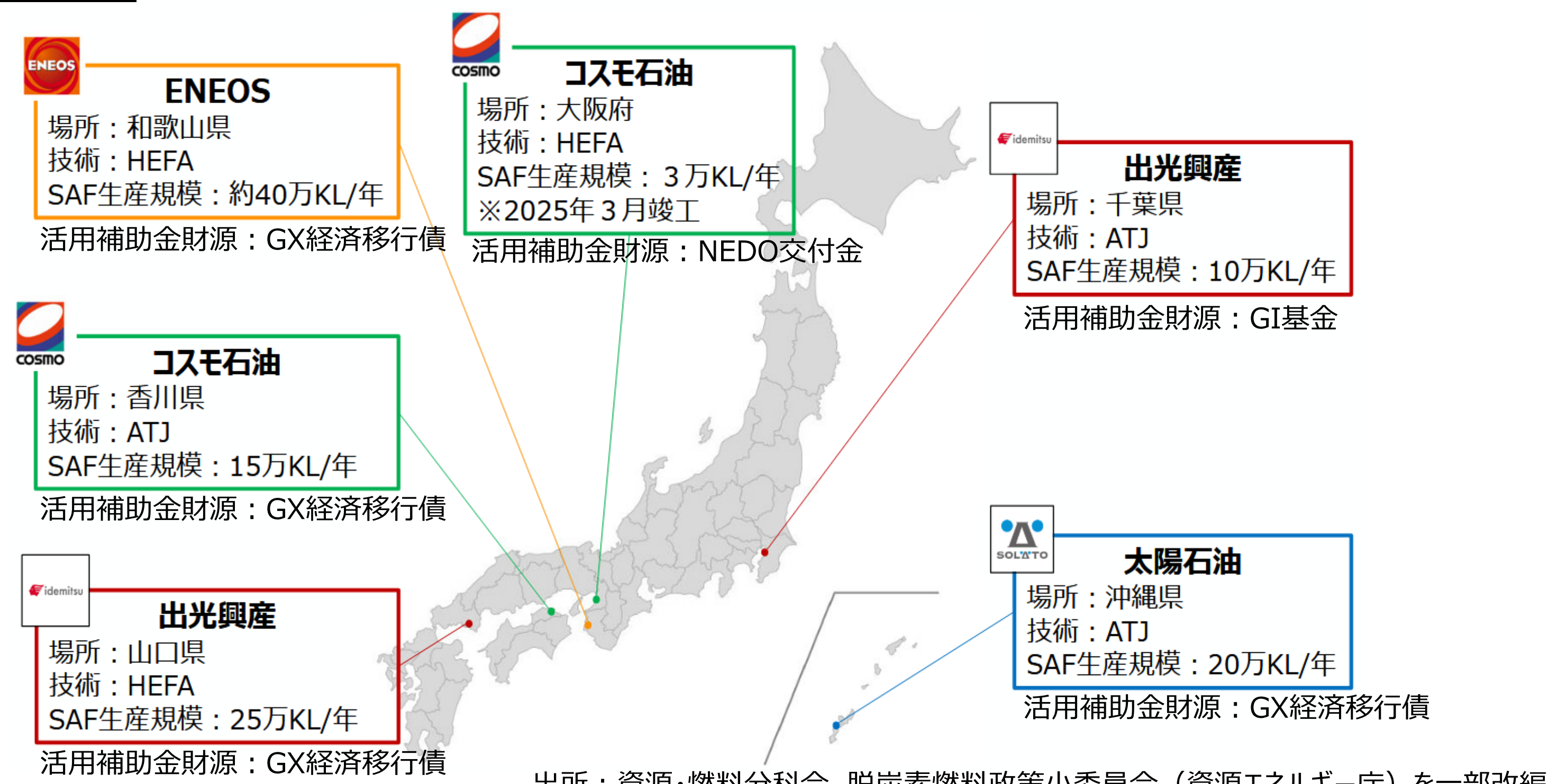


国際航空からのCO₂排出量予測と排出削減目標のイメージ

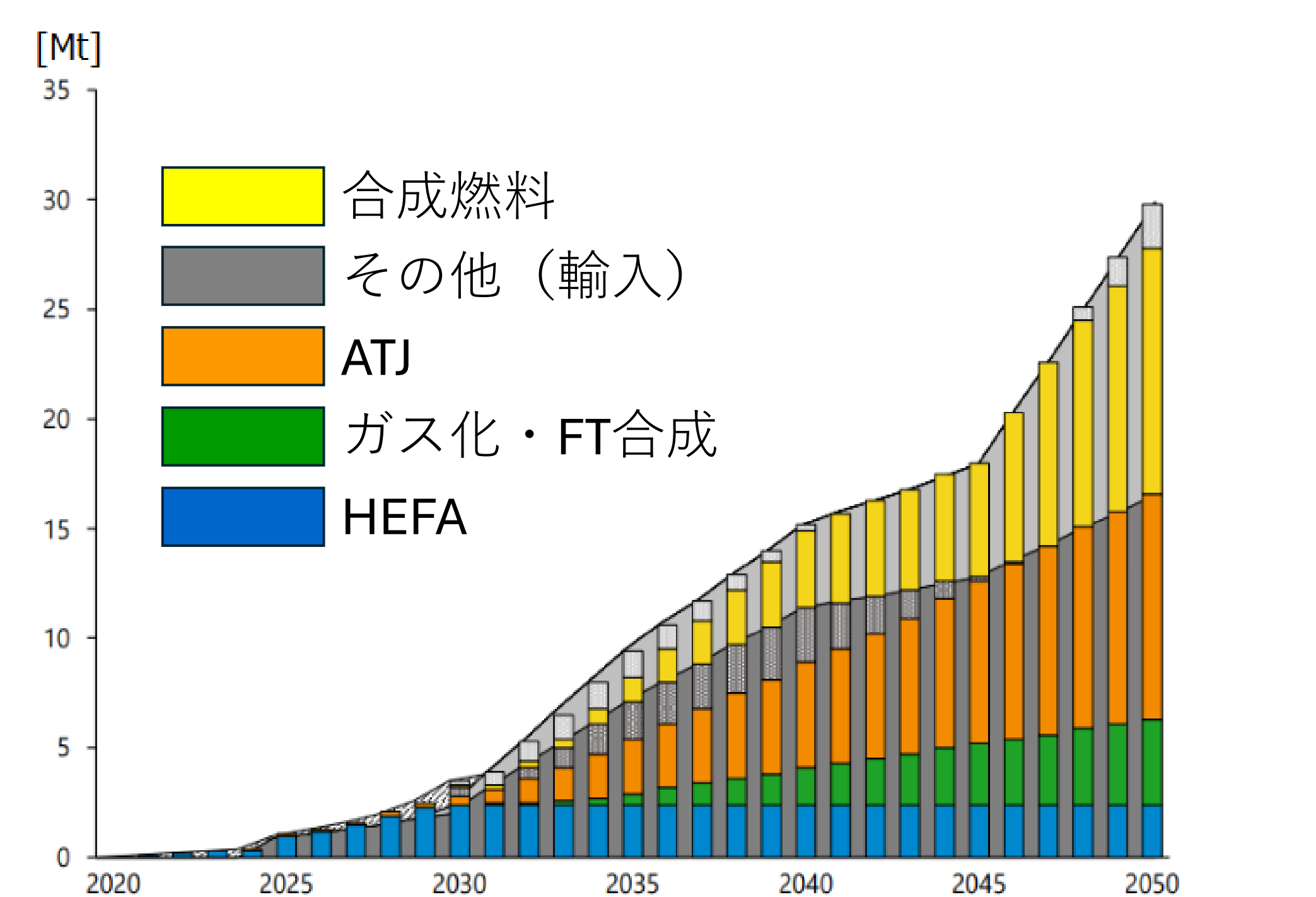
出所：ICAO LTAG Reportから抜粋（IS3：ICAOによる野心的なシナリオ）/経済産業省資料

■ SAF製造に向けた動向

ATJ、HEFAを中心に各社で建設計画中。うちコスモ石油（大阪府）は先行してHEFAで製造中。中長期的には**ガス化・FT合成、合成燃料**も含めた供給構造が期待されている。



出所：資源・燃料分科会 脱炭素燃料政策小委員会（資源エネルギー庁）を一部改編



欧州における将来のSAFの製造技術予測

出所：SkyNRG, SAF Market Outlook

■ SAF等の安定的・効率的な生産技術開発事業の概要

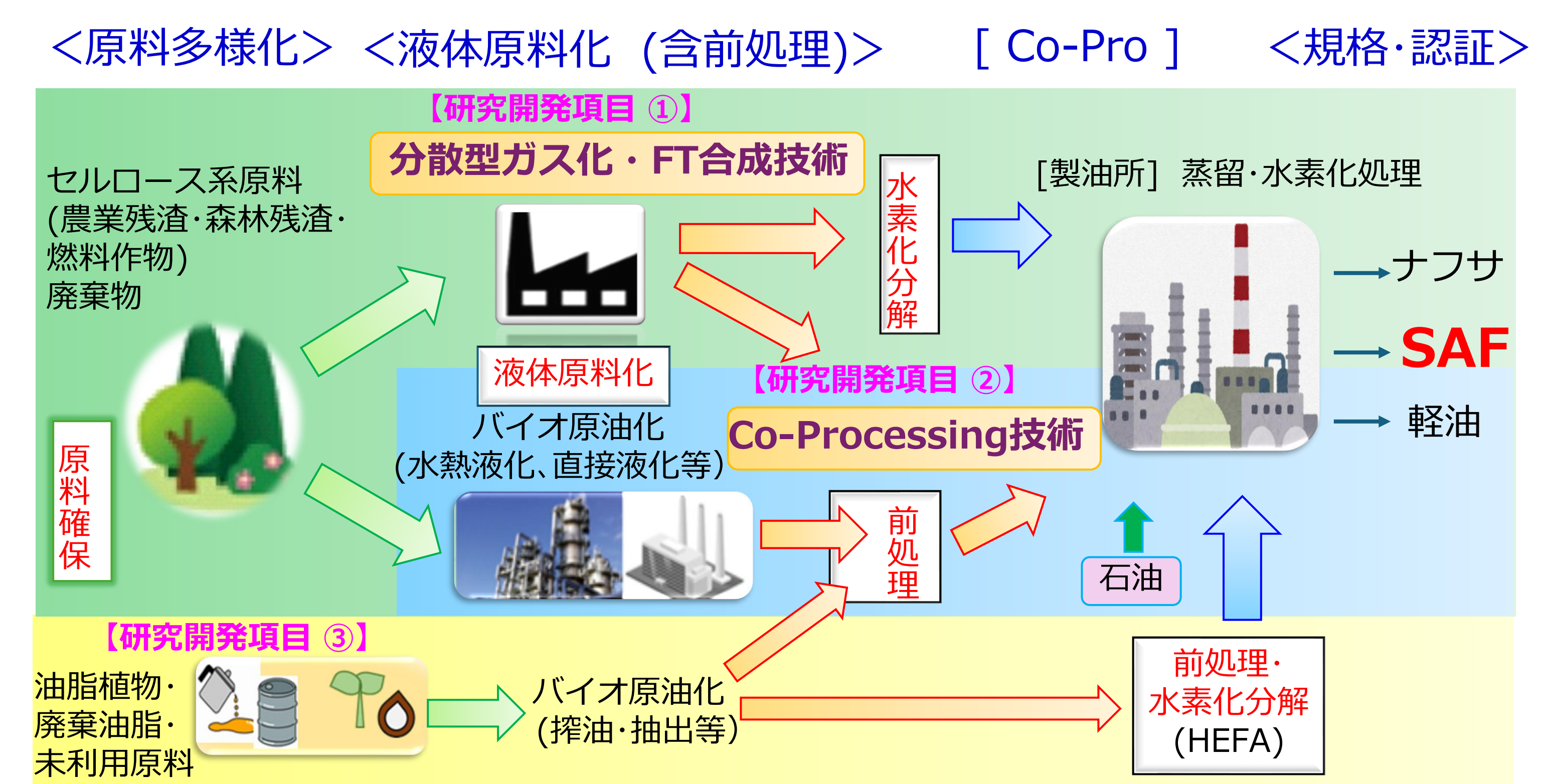
実施期間：2025年度～2029年度（5年間）

事業概要

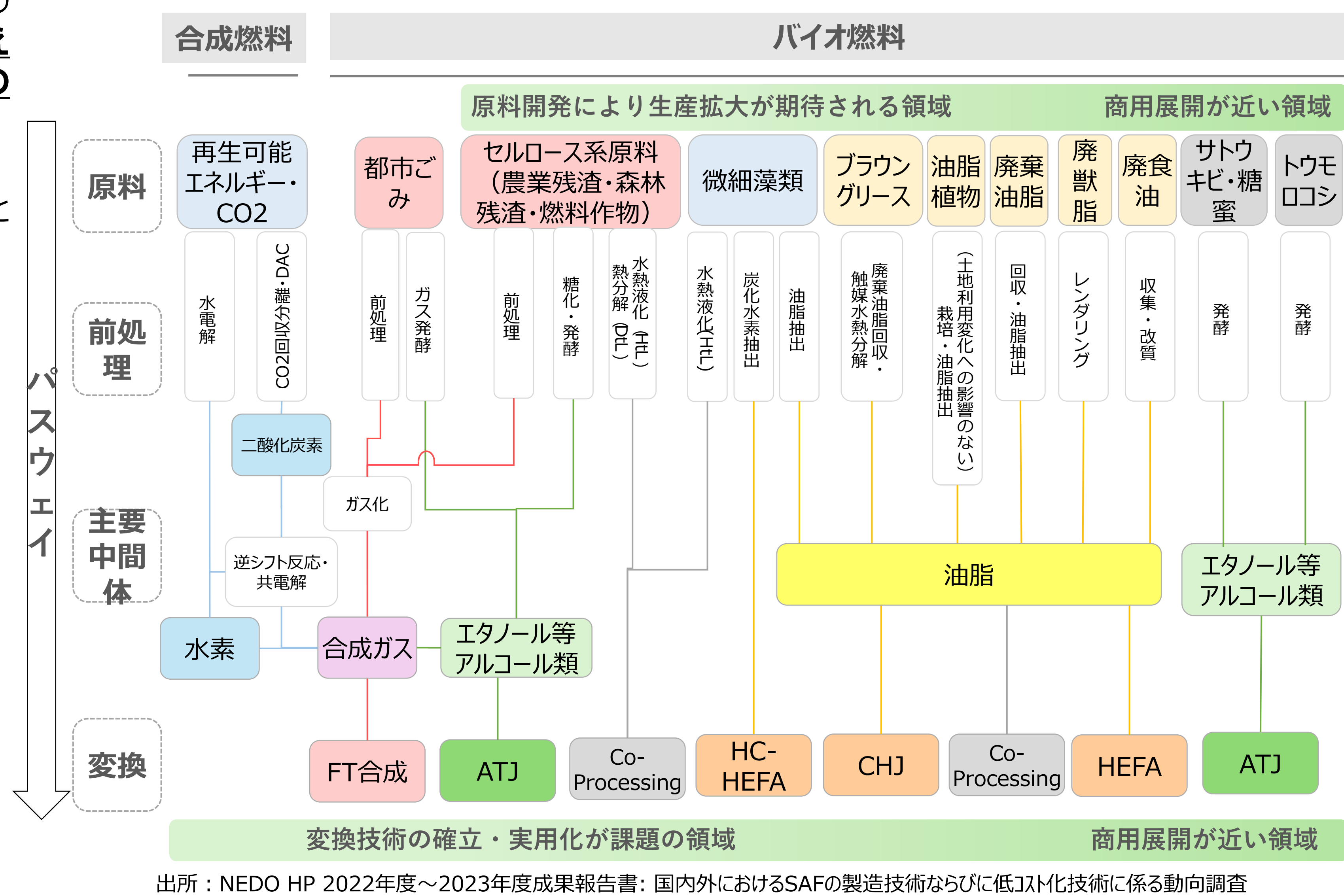
2030年以降も急拡大するSAF需要に対して、**商用化に至っていない多様なSAF生産技術、ならびに原料の開発**にGHG排出削減幅も意識しつつ取り組み、ICAO CORSIA（Carbon Offsetting and Reduction Scheme for International Aviation）による航空脱炭素短中期目標（～2035年）以降の国際競争力のあるSAFの普及拡大に貢献することを目指す。具体的には、以下①～③の研究開発項目を実施する。

- ①**多様な原料（セルロース系原料）**を利用可能な**SAF製造技術（ガス化・FT）の開発**
- ②**Co-Processing**を活用し**バイオ原油を処理可能な革新的なSAF等製造技術の開発**
- ③**未利用原料の開拓によるSAF原料の多様化**

事業の概念図



様々な原料からのSAFへの変換プロセス



変換技術の確立・実用化が課題の領域

商用展開が近い領域

出所：NEDO HP 2022年度～2023年度成果報告書：国内外におけるSAFの製造技術ならびに低コスト化技術に係る動向調査